



# 1st day

9月15日(日)

17:00-17:05 開会の言葉 堀江 重郎 順天堂大学大学院医学研究科泌尿器外科学 教授

## 17:05-17:40 オープニングセッション

今年も坪田一男先生より、アンチエイジング医学におけるトレンドと最新の研究の流れについてサマライズしていただきます。30分の講演を聴くだけで全体の流れがつかめるお得なセッションです！  
サーカディアンリズム、幸せ研究、腸内細菌など様々なトピックを網羅し、2日間にわたるこのセミナーの意義についても楽しく紹介していただきます。

1 17:05-17:40

## アンチエイジングアップデート



坪田 一男

慶應義塾大学医学部眼科学教室 教授  
ヘルスサイエンスラボ代表

**プロフィール**  
1980年慶應義塾大学医学部卒業。米ハーバード大学にてフェローシップ修了。角膜移植、ドライアイ、屈折矯正手術の第一人者。再生角膜移植、近視・乱視・遠視・老眼などの最先端の治療に取り組む。近年は研究と診療に抗加齢医学＝アンチエイジング医学を導入。  
日本抗加齢医学会副理事長、日本再生医療学会理事など。  
<http://www.tsubota.ne.jp/>

**著書**  
『人は誰でも「元気な100歳」になれる』(小学館101新書)、『ごきげんな人は10年長生きできる』(文春新書851)



### 座長|紹介



堀江 重郎

順天堂大学大学院  
医学研究科泌尿器外科学  
教授

**プロフィール**  
1985年東京大学医学部卒業。米国テキサス州パークランド記念病院、国立がんセンター中央病院等を経て、2002年杏林大学医学部(泌尿器科学)教授、2003年帝京大学医学部(泌尿器科学)主任教授、2012年順天堂大学医学部泌尿器科学講座泌尿器外科学 教授就任。現在に至る。専門領域：泌尿器手術、泌尿器癌の治療、男性医学、腎臓病の治療。日本泌尿器科学会指導医、泌尿器腹腔鏡技術認定医、日本腎臓学会指導医。

**著書**  
『男性の病気の手術と治療－診療室では聞けない前立腺・ED・がんの心得(おとなのための医学読本)』(かまくら春秋社)、『ヤル気がでる！最強の男性医療』(文春新書919)



## 17:40-20:20 サーカディアンリズム

目はカメラの役割だけでなく、時計の機能も果たしていた、というレビューがサイエンティフィックアメリカンという雑誌に掲載されました[The Hidden Organ in Our Eyes(SCIENTIFIC AMERICAN May 2011)]。目は物を見てだけでなく、光を介して朝であるというシグナルを脳へ送り、脳の時計遺伝子が体のサーカディアンリズムを調整します。目はまさに時計としても機能しているのです。このセッションでは、その時計遺伝子の基本からメタボリズム、健康への影響、そして臨床現場への応用までをカバーして討議します。生命誕生から続く光と光の関係がアンチエイジング医学にどう応用できるのか、そのエッセンスをディスカッションします。

### 座長|紹介

坪田 一男

慶應義塾大学医学部  
眼科学教室 教授  
ヘルスサイエンスラボ代表

渡辺 光博

慶應義塾大学政策・  
メディア研究科 教授  
ヘルスサイエンスラボ代表



### プロフィール

1992年東北大学遺伝子実験施設博士課程前期修了。2001-2004年フランス国立イリパスツール大学(ULP)分子生物学科博士課程修了(Ph.D)。2004-2006年フランス国立科学研究所 ULP分子遺伝細胞生物学研究所(IGBMC)研究員を経て、2007年慶應義塾大学医学部 腎臓内分泌代謝内科分子代謝システム医学講座准教授、2012年より慶應義塾大学大学院教授 政策・メディア研究科、ヘルスサイエンスラボ代表。臨床を視野に入れた基礎研究を推進し、生活習慣病予防法、治療法にアプローチしたい。趣味はスキー、釣り、海外放浪の旅。

1 17:40-18:15

## 体内時計をつかさどる 時計遺伝子

花井 修次

茨城県企画部科学技術振興課研究開発調整監



### プロフィール

1992年筑波大学生物学類卒業。1999年博士(医学)。筑波大学基礎医学系講師を経て、(独)産業技術総合研究所・生物時計研究グループ。主にショウジョウバエを用いてサーカディアンリズムの分子機構解明に取り組む。2011年より茨城県庁に転出中。

**著書**  
『きちんとわかる時計遺伝子(時計遺伝子の進化とモデル生物)』(白日社)、『時間生物学事典(血中ホルモン)』(朝倉書店)



2 18:15-18:50

## 時計遺伝子とメタボリズム －働く人の健康管理の視点から－

久保 達彦

産業医科大学公衆衛生学 講師



### プロフィール

2000年産業医科大学医学部卒業。2006年産業医科大学大学院(臨床疫学)在学中に体内時計の乱れをひきおこす交代制勤務が前立腺がんのリスク因子であることを世界に先駆けて報告。以降、企業で産業保健実務経験を積みつつ交代制勤務者の健康管理について積極的な研究を展開している。2009年産業医科大学医学部公衆衛生学教室(講師)。2012年第10回日本時間生物学学会学術奨励賞受賞。

**著書**  
『体内時計の科学と産業応用(バイオテクノロジーシリーズ)』柴田 重信(担当:分担執筆、範囲:交代制勤務による発癌リスク)。(シーエムシー出版)



3 18:50-19:25

## サーカディアンリズムと 健康

大塚 邦明

東京女子医科大学東医療センター  
時間医学老年総合内科 教授



### プロフィール

1948年愛媛県生まれ。1972年九州大学医学部卒業。九州大学温泉治療学研究所助手、高知医科大学老年病学教室助手を経て、1998年より東京女子医科大学 東医療センター 内科教授。2008年より東京女子医科大学 東医療センター 病院長。2013年より現職。医学博士。時間医学・老年医学が専門。時間医学とフィールド医学の融合を求めている。

**著書**  
『体内時計の謎に迫る』(技術評論社)、『「時計遺伝子」の力をもっと活かす!』(小学館101新書)



4 19:25-20:00

## サーカディアンリズムと 時間治療

大戸 茂弘

九州大学大学院薬学研究院薬剤学分野 教授



### プロフィール

1988年 愛媛大学大学院医学研究科博士課程修了。米国南カリフォルニア大学薬学部ジョンスタッフアール薬剤学研究所研究員(Dr. Vincent H.L.Lee研究室)。日本臨床薬理学会賞(臨床薬理研究振興財団賞)、日本薬学会賞(学術振興賞)、日本薬理学会評議員、日本臨床薬理学会評議員、日本時間生物学学会評議員、日本薬剤学会評議員、九州山口薬学会理事。研究領域として、時間治療学、医療薬学、薬効評価学など。

**著書**  
『時間薬理学による最新の治療戦略』(医薬ジャーナル社)



20:00-20:20 ディスカッション

# 2nd day

9月16日(月・祝)

## 9:00-10:20 特別講演 Human Microbiome

### ～共生菌がアンチエイジングのキーだった!～

マイクロバイオームの解析技術が発展し、人の体内に住む微生物の遺伝子の数は人間の遺伝子の総数よりも遥かに多いことが分かってきました。ウイルス、腸内細菌などの微生物のために人は生きていても過言ではありません。腸内細菌をめぐっては、肥満や性格などとの関係も指摘されるようになってきており、ウイルスにおいても、例えばガンを起こすウイルスやそのメカニズムも解明されてきています。このような新しい研究が進む中、微生物とどのようにつきあっていくことがアンチエイジングにつながるのか、日本で最先端のマイクロバイオーム研究をされている福田真嗣先生と、ウイルスと人との面白い共生関係についてアメリカの研究者よりビデオ講演をお願いいたしました。体と健康に関する視点を変えるセッションになればと考えています。

#### 座長紹介

坪田 一男 慶應義塾大学医学部眼科学教室 教授  
ヘルスサイエンスラボ代表

1 9:00-9:35

## Human Microbiomeと生体応答の理解による新たな健康増進ストラテジー

福田 真嗣

慶應義塾大学先端生命科学研究所  
特任准教授



プロフィール  
2001年明治大学農学部卒業。2006年同大学院農学研究科博士課程修了。博士(農学)。(独)日本学術振興会特別研究員、(独)理化学研究所免疫・アレルギー科学総合研究センター基礎科学特別研究員などを経て、2012年より現職。2011年には善玉菌による病原菌感染予防の分子機構を世界に先駆けて明らかにし、Nature誌に報告。2013年文部科学大臣表彰若手科学者賞受賞。専門は腸内環境システム学、統合オミクス科学。

2 9:35-10:20

## The Human Microbiome: Recent Discoveries on How it Affects Health & Metabolism

Robert Rountree

※ビデオ講演&Skypeディスカッション



プロフィール  
●Education  
B.A. (Biology, with minor in Chemistry): University of North Carolina  
M.D.: University of North Carolina  
●Employment  
Thorne Research, Idaho: Chief Medical Officer; July, 2010 - present  
Boulder Wellcare, Inc., Colorado: solo medical practice (owner); 2002-present  
●Appointments (active)  
Institute for Functional Medicine (Clinical Faculty and Research Affiliate)  
Integrative Practitioner online community (Advisory Board)  
American Botanical Council (Advisory Board)  
●Professional Societies: Colorado Medical Society, American Herbalists Guild, American Nutraceutical Association

## 10:30-12:00 運動のサイエンス

運動による身体への分子レベルでの効果が近年の研究で明らかになってきています。また我が国における疫学研究なども進んでおり、医療費が高まる中、日常生活で行える運動が健康にどのようなメカニズムで、どのような効果があるのかを検討します。運動によってサーチュインの活性が高まること、運動で脳の新生神経が発現する研究、厚生労働省の研究班による運動と糖尿病と関係など、最先端の研究を紹介し、討議します。

#### 座長紹介



南野 徹 新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器内科学 教授

プロフィール  
1989年千葉大学医学部卒業。臨床研修後、東京大学医学部にて医学博士取得。ハーバード大学医学部研究員、千葉大学大学院医学研究科循環器内科学講師を経て、2013年新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器内科学教授に就任。現在に至る。血管再生治療や老化研究を研究領域としてもち、2010年には日本循環器学会賞(佐藤賞)やベルツ賞を受賞している。

1 10:30-11:00

## サーチュインと運動

諏訪 雅貴

東北工業大学ライフデザイン学部  
安全安心生活デザイン学科 准教授



プロフィール  
1994年筑波大学第二学群生物学類卒業。同大学院体育科学研究科博士課程修了。日本学術振興会特別研究員、九州大学健康センター研究員などを経て、現在、東北工業大学ライフデザイン学部安全安心生活デザイン学科准教授。骨格筋の運動適応に関する研究や、地域高齢者の運動指導・体力つくりの実践的活動などを行っている。

3 11:30-12:00

## 運動がもたらす健康と長寿のエビデンス

曾根 博仁

新潟大学大学院医歯学総合研究科  
血液・内分泌・代謝内科 教授



プロフィール  
1990年筑波大学医学部卒業。同大学院で研修後、米国ミシガン大学代謝内分泌内科に留学。筑波大学代謝内分泌内科講師、お茶の水女子大学生生活習慣病医学准教授、筑波大学水戸地域医療教育センター内分泌代謝糖尿病内科教授を経て、2012年より現職。糖尿病を初めとする生活習慣病を専門とし、臨床疫学的手法を取り入れ健康長寿に役立つ臨床エビデンスの確立に取り組む。日本医師会研究奨励賞、日本糖尿病学会賞、長寿科学財団研究奨励賞など受賞。日本内科学会、糖尿病学会、内分泌学会、動脈硬化学会の各専門指導医・評議員、日本疫学会理事など。

2 11:00-11:30

## 生活習慣を改善して脳老化を防ぐ

久恒 辰博

東京大学大学院  
新領域創成科学研究科 准教授



プロフィール  
1987年東京大学農学部卒業。その後、同大学院進学、助手を経て、米国NIHにて神経再生に関する研究に従事。1999年より現職。生活習慣の改善による脳老化の予防を研究。神経再生、学習記憶研究、アルツハイマー病モデルマウス、など最先端の知見を研究に取り組む。近年はMRI画像計測を脳老化予防研究に導入。<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/hisatsune-lab/>

著書  
『1週間で脳から生まれ変わる技術』(扶桑社)、  
『なぜ、歩く脳は老いにくいのか?』(PHP研究所)



12:00-12:20 Brake Time

12:20-13:05 ランチョンセミナー

13:05-13:20 Brake Time

## 13:20-15:20 エピジェネティクス

エピジェネティクスは、ほぼ同じ遺伝子をもって生まれた双子でも生活習慣や環境などの影響で遺伝子発現が変わり、その結果、全く違った個体があるという現象がその遺伝子発現から解明され、急速に進んできた研究分野です。このセッションでは、エピジェネティクスの基礎や最新トピックスからはじまり、食事の摂取とガンとの関係、臨床として今後医薬などでもどのような分子が期待されているのか、また生活習慣がどの程度遺伝子発現にインパクトを与えるかなどをご講演いただきます。

### 座長紹介

#### 澤登 雅一

三番町ごきげんクリニック  
院長

#### 安藤 潔

東海大学医学部  
内科学系血液・腫瘍内科  
教授

### プロフィール

1983年慶應義塾大学医学部卒業、医師免許取得。同年、慶應義塾大学病院内科研修医。1985年国立東京第2病院(現東京医療センター)内科医師。1987年慶應義塾大学医学部内科学教室、東海大学医学部DNA生物学教室研究員、1988年東海大学医学部微生物学教室助手。1991年ハーバード大学ダナ・ファーマー癌研究所留学。1995年東海大学医学部微生物学教室講師。1997年東海大学医学部血液リウマチ内科学教室講師。2002年東海大学医学部血液リウマチ内科学教室助教授を経て、2005年東海大学医学部血液・腫瘍内科学教室教授、再生医学センター・センター長。2006年外来化学療法センター長。2013年、がん幹細胞研究センター・センター長

## 1 13:20-13:50

### エピジェネティクスの基礎と最新トピックス

#### 藤田 敏郎

東京大学先端科学技術研究センター  
名誉教授 / CREST研究代表



### プロフィール

1972年慶應義塾大学医学部卒業。米国National Institutes of Health、筑波大学、東京大学第四内科を経て、東京大学大学院医学系研究科内科学(腎臓・内分泌内科)教授・科長を経て、東京大学先端科学技術研究センター「臨床エピジェネティクス講座」特任教授就任。戦略的創造研究推進事業「CREST」研究代表者。東京大学名誉教授。内科学会(理事長・会頭) 高血圧学会(理事長・会長) 腎臓学会(会長) 内分泌学会(会長)を歴任。現在Hypertension誌やDiabetes誌のEditorial Board Memberを務めている。2009年度AHA High Blood Pressure Council Corcoran賞を受賞。

## 2 13:50-14:20

### 食事がエピジェネティクスに与える影響、及びがんとの関係

#### 秋山 好光

東京医科歯科大学  
分子腫瘍医学分野 講師



### プロフィール

1989年東邦大学理学部生物学科卒業。筑波大学および東京医科歯科大学大学院を経て、1994年から東京医科歯科大学衛生学教室助手(湯浅保仁教授)、2003年より現職。2000年から日本学術振興会海外特別研究員として米国Johns Hopkins大学留学(Dr. Stephen B. Baylin)。  
研究: 遺伝性非腺腫性大腸がん(HNPCC、リンチ症候群)の原因遺伝子の探索とその発症機構の解明を行い、hMSH6がHNPCCの原因遺伝子の一つであることを世界で最初に報告した(1997年)。その後、がんのエピジェネティクス研究を行う。胃がんの発症機構、食生活などの生活習慣要因など多岐に渡り、エピジェネティックな変化との関連性を解析している。  
<http://www.tmd.ac.jp/grad/monoc/A3/index.html>  
<http://www.tmd.ac.jp/grad/monoc/index.html>

## 3 14:20-14:50

### エピジェネティクスと臨床応用

#### 澤登 雅一

三番町ごきげんクリニック  
院長



### プロフィール

1992年東京慈恵会医科大学卒業。血液内科医として、日本赤十字社医療センターにて14年間勤務後、2005年三番町ごきげんクリニック院長に就任。2007年より東海大学医学部血液・腫瘍内科非常勤講師、2013年より慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 特任教授を兼務。

### 著書

『人より20歳若く見えて、20年長く生きる』(ディスカヴァー)  
『ビタミンCはガンに効く』(ディスカヴァー)、『細胞から「毒」が逃げ出す生き方〜キレーション身体革命〜』(講談社)



## 4 14:50-15:20

### 生活習慣病とエピジェネティクス

#### 亀井 康富

京都府立大学生命環境科学研究科  
分子栄養学研究室 教授



### プロフィール

1989年京都大学農学部食品工学科卒業(栄養化学研究室)、1994年京都大学大学院農学研究科博士課程食品工学専攻修了、1994年~京都大学農学部 日本学術振興会特別研究員、1994年~米国カリフォルニア大学 博士研究員、1997年~大阪バイオサイエンス研究所 研究員、2001年~国立健康・栄養研究所 科学技術振興機構 さきがけ21専任研究者、2005年~東京医科歯科大学 助教授・准教授・特任教授、2011年~現在 京都府立大学 教授

## 15:20-15:35 Brake Time

## 15:35-17:35 生活習慣とポジティブサイコロジー

2011年Scienceに「Happy People Live Longer」という総説が発表されました。幸せが、人の健康や寿命にどのように関係しているかという疫学研究をまとめた論文で、幸福が主体的な感情ではなく、科学的にどのように捉えられるかという将来の方向性を考える布石となる論文となりました。このセッションでは、腸内細菌とこころの関係や、環境が脳の記憶や学習障害の機能へ与える影響、スマホなどの端末がどのような影響を与えるかなど最先端のトピックスを討議します。

### 座長紹介

#### 三村 将

慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室 教授



### プロフィール

1984年慶應義塾大学医学部卒、1984年慶應義塾大学医学部精神神経科研修医、1986年ヘルメー国リマ市国立精神保健センター派遣専門家、1990年慶應義塾大学医学部精神神経科助手、1992年ポスドク医学部行動神経学部門、失語症研究センター、記憶障害研究センター研究員、1994年東京歯科大学市川総合病院精神神経科講師、2000年昭和大学医学部精神医学教室助教授(呼称変更に伴い、准教授)、2008年スタンフォード大学精神科訪問教授、2011年慶應義塾大学医学部精神神経科教室教授。専門は老年精神医学、神経心理学。認知症、もの忘れ、頭部外傷、老年うつ病などの患者さんの診療、研究に従事している。

### 著書

『EBM精神疾患の治療』(中外医学社)、『老年期うつ病ハンドブック』(診療と治療社)、『新しい診断と治療のABC:認知症』(最新医学社)、『精神科研修ノート』(診断と治療社)



## 1 15:35-16:05

### 腸内細菌とこころの発達

#### 須藤 信行

九州大学大学院医学研究院心身医学 教授



### プロフィール

1988年九州大学医学部卒業。1997年同大学精神身体医学講座助手。2000年同大学院心身医学講師。2004年同大学院心身医学助教授を経て、2009年 同大学院心身医学教授。

現在に至る。ストレス、腸内細菌、食物成分などの外界要因が疾患の発症や病態形成にどのように影響しているかについて、臨床的、基礎的観点より検討している。

## 2 16:05-16:35

### 記憶・学習機能と分子モーターの重要な役割

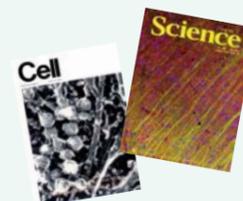
#### 廣川 信隆

東京大学大学院医学系研究科 特任教授



### プロフィール

1971年東京大学医学部卒業、米国ワシントン大学医学部准教授を経て1983年東京大学医学部教授、2003-2007年医学研究科長・医学部長日本学士院会員、ヨーロッパ分子生物学機構(EMBO)名誉外国人会員、国際細胞生物学会会長、Human Frontier Science Program(HFSP) President神経科学、細胞生物学の分野の国際的リーダー。200編以上の論文をCell, Nature, Science, Neuron等の国際的Journalに掲載、其の多くが表紙を飾る。  
<http://www.cb.m.u-tokyo.ac.jp>



## 3 16:35-17:05

### 夜型社会と心身の健康

#### 三島 和夫

国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所・精神生理研究部 部長



### プロフィール

1987年秋田大学医学部卒業。秋田大学准教授、米国バージニア大学時間生物学研究センター、スタンフォード大学医学部睡眠研究センター客員准教授等を経て現職。人の睡眠・体内時計調節の基盤研究、加齢に伴う睡眠障害の病態解明などに取り組んでいる。今年度、睡眠薬の適正使用及び減量・休薬ガイドラインを作成した。日本睡眠学会理事、日本時間生物学会理事など。<http://labo.sleepmed.jp>

## 4 17:05-17:35

### スマートフォン閲覧が睡眠覚醒リズムに与える影響

#### 古賀 良彦

杏林大学医学部精神神経科学教室 教授



### プロフィール

1971年慶應義塾大学医学部卒業。1976年杏林大学医学部精神神経科学教室。1995年より同大学医学部精神神経科学教室主任教授。治療は精神医学全般にわたり行っていますが、特に統合失調症、うつ病の治療が専門です。また、アロマテラピーや食品の効果科学的に検証し臨床への応用を試みています。研究面では精神生理学を専門とし、脳波分析や脳機能画像を用いた研究を行っています。

### 著書

『熟睡する技術』(メディアファクトリー)  
『週末うつ』(青春出版社)



## 17:35-17:40 閉会の言葉

#### 森下 竜一

大阪大学大学院医学系研究科  
臨床遺伝子治療学講座 教授